



善悪の判断

部長 勝木 茂

先日、各学級の授業の様子を見て回っているとき、2年生の「道徳」の授業が気になり、結局、その一時間最後までずっと見ていました。「ある日のくつばこで」という教材名（日本文教出版）で「善悪の判断」を内容としているものです。

話（教材）は、人物3人が登場します。体育の授業のはじまる前、Aさんがくつをかかず場面をBさんとCさんが偶然見てしまいます。BさんとCさんがびっくりしているとAさんと目が合い、Aさんは「だれにも言わないでね」といって走って去っていきます。2人は顔を見合わせますが、Bくんが「そうだ元通りにしてあげよう」と言って、かくされたくつをもとにもどします。その後、2人は体育の授業にもどりますが、Cさんは授業中もずっと気になり「こんなときどうしたらいいんだろう」と考えます。そして、Cさんはいつもお母さんが言ってくれている「正しいことができる人が勇気がある人なのよ」を思い出し、「そうだ、ゆうきを出そう」と決心します。心臓がちょっとドキドキしていましたが、心は晴れてきました。（※一部、教科書より引用）

この2年生の授業は、1組・2組・3組とも同じ週に実施し、わたしは全部の学級の授業を見ました。

先生： どうしてCさんは体育の授業中もずっと気になっていたのかなあ

児童： 元通りにしたことがAさんに分かったら嫌われるかもしれない・・・

児童： 「言わないで」って言われているから、言っただけはいけない、けれど・・・

児童： 元通りにしたから一応解決したけれど

児童： 「くつかくし」は悪いことだから、このままではいけないけれど・・・

児童： 先生に言ったらAさんに怒られるかもしれないし、仲が悪くなるし・・・

どの学級でもこのような意見や考えが聞かれました。

先生： Cさんは「ゆうきを出そう」って決心したけど、どんな決心をしたのかな

先生のこの発問については、考えを「どうと

くノート」に書かせている学級もありました。鉛筆が止まっている子どもも結構いました。

児童： このままではいけない

児童： このことを先生に言おう

児童： Aさんに話そう

このような意見や考えが聞かれました。そして最後の部分、「Cさんの心が晴れてきたのはどうしてでしょう」については、なかなか想像するのが難しかったように感じました。

この道徳の授業のねらいは、「くつかくし」を目の当たりにしたCさんの気持ちを想像し、Cさんに自分を投影しながら、自分ならばどのような行動をするのかを考えることができるようにすることです。子どもたちのほとんどは、「くつかくし」は悪いことだと知っています。でも、実際の生活場面では、このお話のように曖昧な状況になることはよくあることです。道徳の授業は、授業後すぐに善悪の正しい判断をした行動がとれるようにすることではありません。もちろんそのようになれば素晴らしいことです。この授業を通して育てたいのは、その子の内面、つまり心の中で善悪の判断が出来るようになり、そして正しいと思うことを行おうとする気持ちです。ですから、子どもたちの発達過程にそって繰り返し指導（授業）を行うことが必要となります。同時に、正しい行動が取れるように、学校生活のすべての場面、家庭や地域での生活場面等において正しい行動が見られた場合、その行動がなぜ素晴らしいのか、教師や親がしっかりと認めてほめて励ましていくことが大切になります。このような体験の繰り返しの中で、本当の意味での善悪の判断が身に付くのだと思います。

さて、3月17日（水）には卒業式を実施します。感染予防対策を徹底し、6年生にとって思い出に残る式が出来ればと考えております。また、本年度も残り1か月となりました。振り返れば、臨時休業2か月間からはじまった一年間でした。様々な変更や中止等にもかかわらず初等部の教育活動にご理解とご協力をいただきましたこと心より感謝申し上げます。